

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	1298600014		
法人名	株式会社 ユーアンドエヌ		
事業所名	グループホーム いきいきの家いすみ		
所在地	千葉県いすみ市岬町桑田2538 (電 話) 0470-80-2083		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成20年12月 3日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】(平成20年11月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	16.7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 寿光会 岬病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑に囲まれた自然豊かで静かな環境の中に「グループホーム いきいきの家いすみ」がある。駐車場を備えた木造平屋建ての新しい建物は、事務所から玄関と2つのユニットが見渡せる機能的な造りとなっている。施設内は全面バリアフリーで広いスペースが確保され、明るく清潔感があり開放的である。また、リビングのベランダからは広く芝生の敷かれた庭や畑へ出られるようになっており、自由に日光浴や畑仕事を楽しめる。職員はみな明るく元気で、入居者と共に和気藹々と楽しい生活が送れる様に、一人ひとりに合わせた柔軟な温かい支援を行っている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念に地域密着型サービスの役割を目指した内容を付加する点については、今後のさらなる改善が望まれるが、その他の改善点は、職員会議や運営推進会議を活用し適切な改善がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価においては、職員の意見を取り入れて管理者と主任が作成している。職員は外部評価の意義を理解し、業務に対する気付きを得ている。評価結果は全員が閲覧し、改善点については職員会議等で話し合い改善に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、市職員・民生委員・区長・地元小学校校長・地主・家族・職員を構成員として、開設時より2回開催された。施設概要の説明と活動状況・外部評価の報告等を行うと共に、意見・情報交換や質疑応答を行い、地域の理解促進とサービスの向上を図っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談窓口や意見箱を設置すると共に、家族の面会時に直接意見や要望等を確認している。今のところ意見や要望、苦情等は挙がっていないが、今後も家族とのコミュニケーションを図り、要望等の確認に努めていく。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域住民とは、散歩時に挨拶を交わす関係が築かれていると共に、施設行事への招待も行っている。また、地域行事や小学校の運動会等に招待を受け参加している。ボランティアの受入れも行い、地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの個性を尊重し、安心安全な生活を主眼とした独自の理念を作り上げている。生き生きとした暖かい家づくりを目指し、一人ひとりに合わせた柔軟なサービスの提供に努めている。	○	前回の指摘を受けて地域との関係性の強化が図られているが、独自の理念の中に、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を盛り込むように、再検討して頂く事を希望します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念が掲示されていると共に、入職時や職員会議等において、職員全員に理念の周知と確認を行っている。また、家族へ理念の説明をすると共に、パンフレットに掲載し外部に向けても周知を図っている。職員は、常に理念を意識しながら温かい支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域住民とは、散歩時に挨拶を交わす関係が築かれていると共に、施設行事への招待も行っている。また、地域行事や小学校の運動会等に招待を受け参加している。ボランティアの受入れも行い、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価においては、職員の意見を取り入れて管理者と主任が作成している。職員は外部評価の意義を理解し、業務に対する気付きを得ている。評価結果は全員が閲覧し、改善点については職員会議等で話し合い改善に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、市職員・民生委員・区長・地元小学校校長・地主・家族・職員を構成員として、開設時より2回開催された。施設概要の説明と活動状況・外部評価の報告等を行うと共に、意見・情報交換や質疑応答を行い、地域の理解促進とサービスの向上を図っている。	○	運営推進会議を定期的に行い、地域交流と施設理解を更に深めて頂く事を望みます。

【千葉県】グループホーム いきいきの家いすみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、施設運営全般に関する質問や相談を随時行い、問題の早期解決を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者の生活状況等の報告を行っている。また、行事写真等を掲載した「お便り」を毎月発行し、手紙や金銭報告等と共に送付して、施設での生活の様子を伝えている。入居者の生活状況に変化があった場合は、随時電話連絡を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口や意見箱を設置すると共に、家族の面会時に直接意見や要望等を確認している。今のところ意見や要望、苦情等は挙がっていないが、今後も家族とのコミュニケーションを図り、要望等の確認に努めていく。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入職があった場合は、入居者へ紹介と挨拶を行い、コミュニケーションの機会を多く持ち、出来るだけ早く馴染みの関係が築けるよう努めている。また、家族へは面会時と手紙にて紹介を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には必要に応じて参加している。研修参加後は、報告会や内部研修にて情報を共有している。また、経営グループ主催の接遇マナー研修会が年4回と入職時に開催されており、職員の育成と質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会に定期的に参加しており、情報・意見交換や勉強会等を行っている。また、経営グループの他施設と会議等で情報・意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時見学を実施していると共に、希望者には体験入居も実施しており、施設の雰囲気に慣れてもらうよう対応している。入居後は、馴染みの物を出来るだけ多く持込んでもらう等、生活暦に合せた支援を行っている。また、職員が手厚く付き添い、家族の協力も得ながら、出来るだけ早く馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望や能力に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。職員は入居者を人生の先輩として敬い、知恵や知識、思いやり等を学ぶと共に、癒しを得ながら生活の支援を行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人・家族から意向や生活状況等を確認している。入居後は日々の生活の記録や、職員の気付きを通して本人の意向の把握に努め、本人本位の生活が送れるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、職員会議にて意見や情報を話し合い、本人・家族の意向や要望を踏まえた上で、計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の達成状況について定期的に評価を行うと共に、6ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化のあった場合や必要であると判断された場合は、その都度見直しを行っている。見直しにおいては、職員会議にて意見や情報を話し合い、本人や家族の意向や要望を踏まえた上で、計画作成担当者が作成している。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家いすみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や買い物等を入居者の希望に応じて実施している。出張理美容が実施され、入居者の整容も支援している。病院の協力を得てリハビリを行い、入居者の運動機能の維持・向上に努めている。病院の行事への参加やボランティアの慰問にて、外部との交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にもかかりつけ医への受診が可能であり、通院支援も行っている。年1回の健康診断を実施していると共に、週1回訪問看護師により適切な健康管理がなされている。また緊急の場合は、協力病院による夜間対応も行われている。入居者が入院した場合においては、医師と連携し早期退院に向けての支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においては施設の方針を明文化し、家族への説明を行い同意を得ている。重度化した場合には、家族・医師・看護師・職員が相談しながら、施設として出来る限りの支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類等については鍵のかかる場所に保管し、個人情報の保護を図っている。職員全員に接遇マナーの指導を徹底しており、入居者への言葉遣いに注意し、プライバシーを損ねないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課や取り決めはなく、入居者個人のペースで過ごしてもらっている。入居者の希望に柔軟に対応し、自由な生活を支援している。希望を言い出せない入居者に対しては、日々の生活の中での観察や、声掛けの工夫で汲み取るように努めている。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家いすみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け、買い物等を共同で行っている。献立作成と食材の納品は配食サービスを利用しているが、毎朝食と週1回の昼食・夕食は自由メニューとし、入居者の希望を取り入れて食の楽しさを広げている。また、外食会や誕生日会も実施しており、食の楽しさを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望や状況に応じて、時間や回数等柔軟に対応している。呼び出しボタンを設置し安全面に配慮すると共に、リフト浴槽にて能力に応じた適切な入浴支援を行っている。また、エアコンの設置や脱衣所から直接トイレへ行ける設計等、快適な入浴を支援している。安眠の為に足浴も実施されている。入浴拒否については、言葉掛け等を工夫し適切な対応を図っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望や能力に応じて、家事や畑仕事等の生活活動を共同で行っている。入居者は、ぬり絵・貼り絵・手芸等の多彩な趣味活動や、ボランティアとの交流に自由に参加している。また、リハビリ訓練を実施し運動機能の維持・向上に努めている。入居者の希望によりお酒等の嗜好品を提供しており、気晴らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩や買い物等を実施していると共に、近隣行事への参加や外出会・ドライブ等を実施し、日常的な外出を支援している。また、入居者や家族の希望により、家族との外出や外泊も可能となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っておらず、必要に応じてチャイムを活用し、安全の確保に努め、入居者の自由な生活を支援している。入居者が外に出た場合は、無理に引き止めず声掛けや見守りで柔軟に対応していると共に、万一に備えて地域へも協力を依頼している。居室には鍵が設置され、入居者のプライバシーに配慮している。		

【千葉県】グループホーム いきいきの家いすみ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年2回の消防避難訓練を実施している。また、通報訓練を実施すると共に、緊急連絡網を掲示し職員への周知徹底を図っている。施設内はオール電化となっており、火災に対する安全性に配慮している。近隣に対しても、災害時における協力を呼びかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合せた適切な食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取量を記録している。摂取量が少ない場合は、嗜好品や間食等で補い、必要な栄養の摂取に努めている。また、状況によっては医師への相談も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで、玄関・廊下・トイレ等ゆったりしたスペースが確保されている。施設内は明るい色調と大きな窓で、明るく清潔感があり開放的である。共有スペースは行事写真や季節の飾付け、入居者の作品等が掲示され楽しい雰囲気作りがなされている。リビングには畳のスペースがあると共に、ベランダから広い芝生の庭や畑へ出られる様になっており、入居者が自由に過ごせる様に工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により、馴染みの物を自由に持込む事が可能となっている。また、希望により畳を敷く事も可能となっており、入居者が安心して居心地良く生活出来るように配慮されている。全居室にエアコンと換気扇が設置され、適切な空調管理がなされている。		